



図書館と県民のつどい
埼玉2023

記録集

2023年12月10日(日)
桶川市民ホール・さいたま文学館

埼玉県図書館協会

はじめに

「図書館と県民のつどい埼玉」は、皆様に「本に興味を持っていただきたい」、「図書館について知っていただきたい」という思いから始まった県内最大級の図書館イベントです。図書館関係者と県内、県外からいらっしゃった多くの皆様がつどい交流する場として、2007年度から毎年開催しています。

17回目となる今回は2019年度以来の会場開催です。2023年12月10日（日）に作家の中島京子さんによる記念講演、中学生のビブリオバトル決勝や県内の公共・高校・大学図書館等による展示など、本や図書館に関わるイベントを実施し、延べ3,122人の皆様にご参加いただきました。

本冊子では、「図書館と県民のつどい埼玉2023」の様子を紹介いたします。

目次

| | |
|----------------------------|-------|
| ■ 中島京子さん記念講演「図書館で夢を見る」 | 1～2 |
| ■ 中学生のビブリオバトル | 3～4 |
| ■ 展示 | |
| ● 公共図書館部会による展示 | 5～8 |
| 中島京子さん著作展示 | |
| 図書館で楽しむボードゲーム | |
| ブックケア 未来へつなげる保存の技術 | |
| 読書のバリアフリー資料展～広がれ！読書の多様性～ | |
| ● 高校図書館部会による展示 | 9～11 |
| 高校司書がつくる！『芋づる式！読書MAP』 | |
| 数字で見る高校図書館2023 | |
| しおりと豆本づくり | |
| 埼玉県の高校司書が選んだイチオシ本2022 | |
| ● 令和5年度 埼玉県推奨図書 | 12 |
| ● 「プチホール」内の展示見取図 | 13 |
| ● SALA加盟図書館所蔵資料展示会 | 14～17 |
| ■ こども読書活動交流集会 | 18～22 |
| ● こどもの本のひろば | |
| ● 学校図書館講座（講師：金澤磨樹子さん） | |
| ● 絵本の読み聞かせ実践講座（講師：杉山きく子さん） | |
| ■ 協賛・その他 | 23～24 |
| ■ 関係者名簿 | 25～26 |
| ■ 開催要項 | 27～28 |

記念講演

中島京子さんによる記念講演
「図書館で夢を見る」観覧記

コロナ禍があけて、4年ぶりの会場開催となった「図書館と県民のつどい埼玉」。

作家の中島京子さんをお迎えした記念講演には、たくさんの観客が詰めかけました。

オンラインは確かに便利ですが、作家さんの創作に関する裏話を生で聴けるのは特別なひとときですよ。

■知られざる！埼玉との縁

中島さんが最初に語られたのが、埼玉との縁の話でした。

特に埼玉とゆかりのある作家さんというイメージはなかったのですが、子供の頃、和光に住んでいたことがある、ということに加え、お父様の中島昭和氏（フランス文学者、2013年没）が熊谷の御出身で、熊谷の親戚が大勢おられた、というお話を聞き、埼玉県民としては、うれしい気持ちになりました。

■お父様との思い出

中学生の頃、国語のノートに処女作の小説を書き始めた中島さんですが、お父様から、学校のノートにそんなものを書くなるとんでもない、と執筆の禁止を申し渡されています（隠れて執筆を続けたそうですが）。

そんなお父様御自身は、翻訳家であり、歌人でもありました。

かつて、お父様からあらすじを教えてもらったこともある田山花袋の『蒲団』を元にデビュー作の『FUTON』（講談社）を執筆されたというお話は興味深いです。

ただし、出版された『FUTON』をお父様に渡したら、付せんがいっぱい付いて（田山花袋からの引用も含め）返ってきた、とい

う落ちがありました。

そんなお父様も、その翌年には、アルツハイマー型認知症を患ってしまわれたそうです。

もし、直木賞受賞作の『小さいうち』（文藝春秋）を読まれていたら、どんな感想をお持ちになったのでしょうか。

■団地の子ども文庫

4歳頃、和光の団地に引っ越した中島さんは、団地の集会所にあった子ども文庫（図書室）がお気に入りになりました。

団地のお母さんたちがカウンターに座り、本を貸し出すとき、スタンプを押してくれるような図書室です。（この話を聞いて、子供の頃、近所の団地の図書室に通った記憶が脳裏によみがえりました。）

この図書室で、中島さんは石井桃子さん訳の『ちいさなうさこちゃん』などの児童書にめぐりあいます。

特に『おむすびころりん』の絵本がお気に入り、繰り返し借りて読み、ついには家で買ってもらったのに、また借りていたそうです。（こういう子供の執着心って、何だかほっこりしますよね・・・）

■『小さいうち』と図書館での調べもの

現在の中島さんは、図書館を調べもので使うことが多いそうです。

地域の資料を調べるために、その地域の公共図書館を利用することをお勧めされていました。（全国の公共図書館職員を勝手に代表してお礼申し上げます。）

戦前・戦中・戦後が舞台の『小さいうち』を執筆されたときも、盛んに図書館で調べものをされたそうです。

『小さいうち』を読むと、当時の光景が色あざやかに目に浮かび、作品の中にスッと入り込んでいけます。（語り手である90歳のおばあさんが作者自身だと思える人がいる、と

いうのもうなずけます。)

こういう小説ならではの魔法を図書館が支えていた、と知ると何だかうれしいです。

作品の中にも描かれていますが、戦前の社会は必ずしも軍国主義一色ではなく、市民生活の穏やかさもあったことが、図書館での調べものから感じられたそうです。

そこへ、例えばキャラメルの変化などから、静かに戦争が影を落としていく様子が垣間見えることをお話されていました。

戦争が市民生活を破壊する様子が毎日報道されている今、『小さいうち』で描かれる日々の生活のかけがえなさは、より心に迫ってきますね。

■国立国会図書館との葛藤(?)、そして…

『小さいうち』執筆の調査に活用されたのは、何といても国立国会図書館でした。

執筆の終わり頃、国会図書館に資料の複写(コピー)を依頼された中島さんでしたが、作品が完成してしまっただけ資料が必要なくなり、かつアメリカに滞在することになったこともあって、しばらくそのままにされていました。

帰国後、国会図書館から連絡をうけるたびに後ろめたい気持ちになり、ズルズル来館を先延ばしにしていた中島さんでしたが、ある日、意を決して(遅れた言い訳を携え)国会図書館に向かいました。

ところが、国会図書館の職員は文句ひとつ言わずにっこり微笑んでコピーを渡してくれたそうです。

こんな体験も、現在の国会図書館の前身である帝国図書館を描いた『夢見る帝国図書館』(文藝春秋)執筆のきっかけのひとつとなります。

さらに、作品を方向付けたのは、『上野図書館八十年略史』(国立国会図書館支部上野図書館/編、1953)という資料との出会いだそうです。

この資料の行間からは、「本を買うお金がな

い!本を置く場所がない!」という図書館自身の叫びが聞こえるように感じられ、それが、主人公の片方が帝国図書館自身、という特異な設定につながったそうです。

「本を買うお金がない!本を置く場所がない!」という声に共感を覚える図書館職員の、どんなに多いことでしょう…。



記念講演の後、会場内の各展示をじっくりご覧になり、サイン会もしていただきました。

中島京子先生、本当にありがとうございました!

(記録 埼玉県立熊谷図書館 大久保 泰)



(「中島京子さん著作展示」も御本人に見ていただきました。)

ビブリアバトル

中学生のビブリアバトル

「図書館と県民のつどい埼玉」では2014年度から県内中学生を対象としたビブリアバトルを開催しており、今回は9回目の開催です。

コロナ禍を経て久しぶりの現地開催ということもあり、過去最多の中学生が参加してそれぞれの本について語りました。

■ビブリアバトルとは

「ビブリアバトル」とは、読んで面白いと思った本を持ち寄って5分間で紹介し、参加者の投票で一番読みたくなった本「チャンプ本」を決定するという書評ゲームです。

台本はなし、レジュメもプレゼン資料もなし。本と自分の身だけでお気に入りの本の魅力を伝えるこのゲームは、図書館だけではなく、学校などでも広く実施されています。

■予選会の様子

11月14日に行われた予選会では、県内21の中学校から34名のバトラー(発表者)が参加して行われました。6グループに分かれて発表を行い、6名が決勝に進みました。予選を勝ち抜いた「チャンプ本」6冊は次のとおりです。(書名五十音順)



予選会の様子

『青い鳥』 重松 清 /著 (新潮社)
紹介：玉利 晃成さん (草加市立谷塚中学校)

『空白小説』
氏田 雄介 小狐 裕介 水谷 健吾 /著
小林 ラン /イラスト (ワニブックス)
紹介：熊谷 陽仁さん (さいたま市立馬宮中学校)

『ゴリラ裁判の日』 須藤 古都離 /著 (講談社)
紹介：田上 千隼さん (熊谷市立別府中学校)

『天使の囁き』 貴志 祐介 /著 (角川書店)
紹介：渡辺 蒼一郎さん (開智未来中学校)

『人間性剥奪』 両角 長彦 /著 (光文社)
紹介：浅水 唯音さん (三郷市立早稲田中学校)

『ミッキーマウスの憂鬱』
松岡 圭祐 /著 (新潮社)
紹介：隅田 空我さん (深谷市立上柴中学校)

■決勝の様子

決勝は12月10日の「図書館と県民のつどい埼玉」にて行われました。バトラーたちは多くの観戦者を前に熱弁をふるいます。



参加者全員での投票の結果、さいたま市立馬宮中学校の熊谷 陽仁さんが紹介した『空白小説』が最多票を獲得して「チャンプ本」に選ばれました。

最後に、参加生徒と保護者の皆様、引率いただいた先生方、開催に御協力・御尽力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

(記録：埼玉県立熊谷図書館 川上 未来)



チャンプ本に選ばれた『空白小説』



決勝集合写真

予選会の紹介本一覧

- 『新編 悪魔の辞典』
ピアス /著
西川 正身 /編訳 (岩波書店)
紹介：諏訪部 泰輔さん (栄東中学校)
- 『アルジャーノンに花束を』
ダニエル・キイス /著
小尾 美佐 /訳 (早川書房)
紹介：杉田 莉歩さん (新座市立第四中学校)
- 『アレにもコレにも！ モノのなまえ事典』
杉村 喜光 /著
大崎 メグミ /絵 (ポプラ社)
紹介：福田 彩心さん (ふじみ野市立大井東中学校)
- 『"It"と呼ばれた子』
デイヴ・ベルザー /著
田栗 美奈子 /翻訳 (青山出版社)
紹介：田山 榎恩さん (川越市立川越西中学校)
- 『お任せ！数学屋さん 1』
向井 湘吾 /著 (ポプラ社)
紹介：佐藤 章人さん (春日部共栄中学校)
- 『きみが明日、この世界から消える前に』
此見 えこ /著 (スターツ出版)
紹介：室井 岳人さん (開智未来中学校)
- 『9月9日9時9分』
一木 けい /著 (小学館)
紹介：福家 琉聖さん (栄東中学校)
- 『クリムゾンの迷宮』
貴志 祐介 /著 (KADOKAWA)
紹介：加藤 日和さん (さいたま市立与野南中学校)
- 『クワトロ・フォルマッジ』
青柳 碧人 /著 (光文社)
紹介：中島 姫咲さん (春日部共栄中学校)
- 『ゴーストハント』
小野 不由美 /著 (KADOKAWA)
紹介：湯本 千穂さん (星野学園中学校)
- 『さばの缶づめ、宇宙へいく』
小坂 康之 林 公代 /著 (イースト・プレス)
紹介：馬 櫻太さん (志木市立志木中学校)
- 『死にたがりの君に贈る物語』
綾崎 隼 /著 (ポプラ社)
紹介：多田 愛菜さん (大妻嵐山中学校)
- 『世界最先端の研究が教える すごい心理学』
内藤 諠人 /著 (総合法令出版)
紹介：井田 有珠さん (熊谷市立別府中学校)
- 『そして父になる』
是枝 裕和 佐野 晶 /著 (宝島社)
紹介：大窪 海さん (深谷市立上柴中学校)
- 『東大8年生 自分時間の歩き方』
タカサカモト /著 (徳間書店)
紹介：高瀬 優太さん (埼玉大学教育学部附属中学校)
- 『なぜ、穴を見つけるとのぞきたくなるの？
子どもの質問に学者が本気でこたえてみた。』
石川 幹人 /著 (朝日新聞出版)
紹介：マーティン 玲さん (三郷市立早稲田中学校)
- 『西新宿 幻影物語』
小林 栗奈 /著 (産業編集センター)
紹介：真田 岳春さん (さいたま市立与野西中学校)
- 『働かないアリに意義がある』
長谷川 英祐 /著 (山と溪谷社)
紹介：山中 泉美さん (星野学園中学校)
- 『判決はCMのあとで
ストロベリー・マーキュリー殺人事件』
青柳 碧人 /著 (KADOKAWA)
紹介：但馬 沙菜さん (大妻嵐山中学校)
- 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』
ブレイディ みかこ /著 (新潮社)
紹介：高岡 祐輔さん (草加市立谷塚中学校)
- 『星くずの殺人』
桃野 雑派 /著 (講談社)
紹介：三浦 百香さん (さいたま市立岩槻中学校)
- 『マカン・マラン』
古内 一絵 /著 (中央公論新社)
紹介：宮尾 仁子さん (さいたま市立岩槻中学校)
- 『また、同じ夢を見ていた』
住野 よる /著 (双葉社)
紹介：坂本 結さん (ときがわ町立都幾川中学校)
紹介：田中 杏さん (川越市立川越西中学校)
- 『マーブル』
珠川 こおり /著 (講談社)
紹介：濱本 衣里さん (本庄東高等学校附属中学校)
- 『予測不能ショートストーリーズ 文化祭編』
にかいどう 青 /著 (講談社)
タダノ なつ /絵 (講談社)
紹介：伏見 琉花さん (吉川市立吉川中学校)
- 『夜市』
恒川 光太郎 /著 (KADOKAWA)
紹介：川越 ゆめさん (鴻巣市立赤見台中学校)
- 『ラブオールプレー』
小瀬木 麻美 /著 (ポプラ社)
紹介：後藤 楓果さん (新座市立第四中学校)

※書名五十音順。決勝に進んだ本は除く。



予選会集合写真

公共図書館部会による展示

中島京子さん著作展示

今年の著作展示は、中島京子さんの多彩な著作の中から、デビュー作を含む 24 点を展示しました。

展示スペース正面には、2010 年に直木賞を受賞した『小さいおうち』、その横には第 30 回紫式部文学賞を受賞した『夢見る帝国図書館』を内容紹介の POP と共に展示しました。



展示スペース裏側には、後述する企画参加用の場所を設け、題字ポスターも用意しました。このポスターは、展示の明るい雰囲気と合致するよう、温かみのある作品『樽とタタン』、『長いお別れ』を題材として作成しました。



また、埼玉県立図書館及び県内の公共図書館の図書館員合計 4 人が実行委員となり、主な取り組みとして 2 種類の企画を行いました。

1 種類目の企画が連携著作展示です。県内の 20 自治体、25 図書館等に参加していただき、中島京子さんの著作展示を実施しました。連携著作展示の様子は事前に写真を送っていただき、入口正面のホワイトボードにて掲示

を行いました。各館の鮮やかに彩られた展示に、心から感服いたしました。

2 種類目の企画が「わたしの好きな作品・わたしの好きな 1 文」の募集です。こちらは自由参加型の企画となっており、中島京子さん著作のおすすめコメントや、作品中の好きな文章を募集しました。事前に募集した市町村立図書館や高校図書館からは、30 を超える応募がありました。また、「図書館と県民のつどい」当日にも参加者がコメントを書く場を設けて募集した結果、約 30 ものコメントが集まりました。お子様からご年配の方まで書いていただき、中島京子さんの作品は幅広い年齢層に支持されていると実感しました。頂戴したコメントは全て、入口正面のホワイトボード掲示及び資料と共に展示しました。記念講演を終えた中島京子さん御本人も展示コーナーにお越しになり、作品に対する愛と情熱溢れるコメントを熱心に御覧になっていました。



今回の著作展示は、図書館関係者から一般の参加者まで、様々な方の協力のもと、完成することができました。皆で一致団結して作り上げたコーナーはとても華やかなものとなり、感慨深い気持ちになりました。

御多忙の中、連携著作展示に協力していただいた図書館関係者の方々、並びに当日お越しくださった皆様に深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。

(記録：北本市立中央図書館 橋本 拓歩)

図書館で楽しむボードゲーム テーマ展示・体験スペース

■はじめに

近年、ボードゲームを用いたイベントを開催する図書館が増えてきています。公共図書館部会では、そんなボードゲームと図書館の関わりをテーマとした展示と、ボードゲームを体験できるスペースを設けました。

■テーマ展示について

図書館とボードゲームに関する図書や、人気ボードゲームが元になった小説、『渋沢栄一人生ゲーム』や『みんなのさいたまマップ』といった埼玉県に関するボードゲームを展示しました。また、図書館が所蔵するボードゲームである郷土かるたの展示や郷土かるたを使ったイベントを紹介しました。

県内市町村立図書館におけるボードゲームイベントのパネル展示として、ボードゲームで遊ぶイベントや、オリジナルのボードゲームを製作するイベントなど、県内公共図書館5館で行われたイベントを紹介しました。



■ボードゲーム体験スペースについて

実際にボードゲームを体験できるスペースを設け、埼玉県に関するボードゲームである『渋沢栄一人生ゲーム』、『みんなのさいたまマップ』のほか、本を使ったゲームである『み

んなで本をもちよって』や、カードを組み合わせて短歌をつくる『ゴーチチゴーチチチ』などのゲームを体験していただきました。



■おわりに

テーマ展示では興味深そうに眺めている方や写真を撮っている方が多く、またボードゲーム体験スペースにも多くの方にご参加いただきました。改めて図書館でボードゲームをイベントとして行うことに注目が高まっていると感じました。

図書館でボードゲームを行う意義の一つとして、ボードゲームがコミュニケーションツールの役割を果たし、対話や交流のきっかけになる、というのがあります。今回の体験スペースにおいてもそれは顕著であり、今日初めて会った人同士が楽しそうに話しながらボードゲームに興じていました。

公共図書館におけるボードゲームのイベントには、様々な疑問や課題があります。なぜ図書館でボードゲームを行うのか、ボードゲームはどうやって用意するのか、どういう基準で選ぶのか、などイベントを始めるにあたってイベントを運営するにも考えなければならぬことが多数あります。今回の展示がそれらの課題を少しでも解消できる手がかりになれば幸いです。

(記録：埼玉県立熊谷図書館 松田 康佑)

ブックケア 未来へつながる保存の技術

■はじめに

ブックケアでは資料の補修道具・保存に関する展示、2種類の綴じ体験、埼玉県立図書館で作成しているチラシ「きほんのき」の配布を行いました。職員4名がスタッフとして参加し、ご案内や体験コーナーの補助を行いました。

■展示



修理に関する道具、様々な綴じ方で修理を行った冊子、簡単な修理方法・本の取り扱い方の注意点をまとめたチラシなど、パネルと現物の展示を行いました。

展示をご覧になった方からは修理道具の入手方法や簡易補修のやり方など、ご質問もいくつかお受けしました。

■綴じ体験



平綴じ（四ツ目綴じ）とリンク・ステッチの2種の綴じ方を体験できるコーナーを設けました。

平綴じはチラシ「きほんのき」（後述）を、

リンク・ステッチでは色紙を使用し、綴じ終わった冊子はお持ち帰りいただきました。両方の綴じ方を体験したいという方も多く、ご用意した席が全て埋まる時間帯もありました。

最終的に平綴じは22人、リンク・ステッチは26人の方にご参加いただきました。

■「きほんのき」配布



「きほんのき」は、修理の材料や道具、基本的な修理方法について、イラスト付きで分かりやすくまとめたチラシです。計11種類あり、多くの方にお持ち帰りいただきました。

「きほんのき」は埼玉県立図書館ウェブサイトにも掲載しています。（下記 URL 参照）

<https://www.lib.pref.saitama.jp/guide/hozon/gizyutu.html>



■おわりに

2019年以來の現地開催となりましたが、ありがたいことにたいへん多くの方にお越しいただきました。今回の展示が、資料保存について少しでも多くの方に関心を持っていただける機会となりましたら幸いです。

ご来場いただいたみなさま、誠にありがとうございました。

（記録：埼玉県立久喜図書館 高木 真奈）

読書のバリアフリー資料展 ～広がれ！読書の多様性～

2019年6月の読書バリアフリー法の施行により、それまでなじみの薄かった、読書に障害のある方向けの資料や機器が知られるようになってきました。

今回の展示では、音声デージーやマルチメディアデージーなど耳で聞いたり画像で理解する資料、点字図書や布絵本など指や手で触れて理解する資料、さらに絵や写真、ピクトグラムを用い、やさしく書かれたLLブックなど、計15点の資料を用意しました。

併せて、リーディングトラッカーや小型点字器などを展示するとともに、卓上型デージー再生機「プレクストーク」を使った資料の再生や、タブレットに収録したマルチメディアデージーのデモを行いました。



来場者の皆様からは、「音声デージーとマルチメディアデージーの違いは」「マルチメディアデージーや布絵本はどういう人が使うのか」「再生の仕方は」など、展示資料や機器に関して様々な御質問をいただきました。

特に布絵本について、「どこで製作しているのか、製作にどのくらい時間がかかるのか」といった御質問のほか、「パーツの取り外しや仕掛けが楽しい」「細かい部分までよく作られている」「名前だけ知っていたが初めて見ることができ、うれしい」といった感想もいただき、関心の高さが伺えました。

また、点字図書や点字付き絵本の説明に興味を持たれた方に対し、職員が点字名刺を作成してお渡ししました。点字を身近に感じていただけたことと思います。



その他、配布用に用意した当館のパンフレットやチラシ、公益財団法人文字・活字文化振興機構からいただいた資料等（計12種）も多くの方にお持ち帰りいただきました。

今回は「広がれ！読書の多様性」というテーマのもと、様々な資料や機器を使った読書の形を御紹介しました。

もし印刷された文字が読みにくいなど、皆様のまわりに読書に困難を感じる方がいらっしゃいましたら、是非こうした資料や機器を御紹介いただき、お近くの図書館又は県立久喜図書館まで御相談ください。

（記録：埼玉県立久喜図書館 蓮見 博）

高校図書館部会による展示

つながる・ひろがる高校図書館

■実行委員

高校図書館部会の実行委員は、地区ネットワークの持ち回りになって5回目となりました。今回は、南部Eネットワーク（川口地区）から7名、南部Bネットワーク（浦和地区）から2名、推奨図書1名の計10名が担当することになり、また11月からは来年度に向け南部Bより6名が参加し総勢16名と増えました。新型コロナの感染状況によっては開催がどうなるのかわからなかったため、まず一番始めに Google Classroom を作り、意見交換、資料の共有をやすくしました。

■企画

テーマは岩波書店の芋づる式読書マップを展示のメインにすることから連想して「つながる・ひろがる 高校図書館」としました。

高校司書がつくる！『芋づる式！読書MAP』

しおりと豆本づくり体験

数字で見る高校図書館 2023

司書が選んだイチオシ本

県民が選んだ埼玉県推奨図書

■準備

- ・第1回 6/30（金）午後

合同実行委員会 さいたま文学館

実行委員顔合わせ、今後のスケジュール

展示会場の割り振り等と下見

- ・第2回 10/18（水）午前 さいたま文学館

展示テーマ、企画内容の検討、係決め、レイアウト検討、前日・当日のスタッフ割り当て等

- ・第3回 11/10（金）川口市立高校
各企画の準備の進捗状況、前日・当日の流れ、分担・シフト等の確認
- ・第4回 1/10（水）浦和第一女子高校
総括、会計報告、記録、次年度体制等

第1回と第2回までの間が3か月半空いてしまったので、Google Classroom でレイアウト案・使用備品・テーマカラーと配色・購入したい消耗品等を共有しやり取りを重ね、イメージを固めて現在の高校図書館が伝わるようにと準備をしました。

■前日・当日

前日は実行委員11名の他に高校司書9名が集まり、備品の設置、各企画のコーナー作り、「つなぐ」装飾で会場を作りあげてきました。

当日は実行委員14名と16名の高校司書で来場者への展示案内、手作り体験説明、誘導等を行いました。小春日和もあってかプチホールに来場された方は453人と多く、反応は一日を通して上々でした。



■各企画について

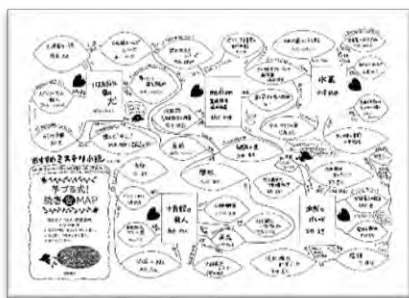


『芋づる式! 読書MAP』は岩波新書フェアで企画された書籍紹介ツールです。5つの本を起点とし、持ち寄った本をテーマやキーワードでつなげて作成します。

今回は、南部Eネットワーク校の司書が作成した「おすすめミステリ小説」「おすすめ恋愛小説」を紹介する読書MAP実物と、その作成過程や各校で読書MAPを展示している様子を写真で紹介しました。また、完成版読書MAPと使用した本のリストを配布しました。



多くの来場者に見ていただき、並んだ本を見ながら話しあったり、自校の生徒でも取り組めるだろうかといった相談を受けるなど、充実した交流ができました。



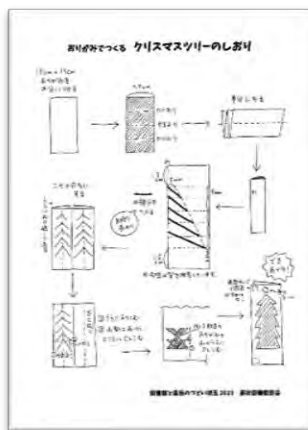
読書MAP



折り紙を使って作るクリスマスツリー柄のしおりとA4の用紙1枚を切って折るだけでできる豆本。2種類から選べる製作体験コーナー企画です。どちらもYouTubeやXなどからアイデアをいただきました。(使用可となっているものです。)



配布資料は「しおりの作り方」と「豆本の型紙」の2種で、「図書館と県民のつどい埼玉 2023」のホームページからもダウンロード可能としました。折り紙に切り込みを入れて折っていくとクリスマスツリーが浮かび上がるしおりの方が、難易度は高かったものの、やや人気でした。豆本は型紙だけ持ち帰る方もいましたが、たくさんの方々に体験していただきました。



クリスマスツリーのしおりの作り方

数字でみる 高校図書館 2023

令和4年度版の埼玉県高等学校図書館研究会「高校図書館白書」、「学校図書館基本調査」を基に展示を作成しました。今回は高校図書館のデジタル化について内容を追加しました。展示の周囲には高校図書館のキャラクターを飾りました。県全体に依頼し、20体のキャラクターが集まりました。

当日は図書館勤務経験者の方など、多くの方に高校図書館の取り組みを紹介できました。



一年間の新刊から「高校生に読んでほしい本」の投票を高校司書より募り、ランキングを決定する「イチオシ本」は、2023年版（2024年2月発表）で14回目を迎えます。ブースではイチオシ本のこれまでの歩みや活動により生まれた書店や公共図書館との繋がり、過去の1位を紹介するポスター展示



と2022年度版ベスト10に選出された図書の展示を行いました。また来場者には、2022年版のベスト10を掲載したパンフレットを配布し、活動についての紹介を行いました。

■おわりに

今の高校図書館を県民の方々に知ってもらいたいと、見ていただくならわかりやすい展示にしようと準備しました。

最初は、実行委員長をはじめ委員の大半がスタッフ未経験でしたが、若い司書も、経験のある司書も活発に提案をして少しずつ前進し、企画が形になっていきました。各委員には本当に感謝しています。

PRに、個人のXやInstagramを使ってはいましたが、視覚的にアピールし拡散に繋がる発信になっていたのか、来場を促す情報をうまく伝えられてなかったのではないかと思います。気軽に多くの方が図書館を知り、楽しんでもらえる「図書館と県民のつどい埼玉」になるには、広報の工夫が課題だと思いました。また高校図書館部会では、今後担当するネットワークで普段の研修内容を「図書館と県民のつどい」の展示にできるよう考えて活動してもいいのではないかと思います。

結びに、当日来場くださった皆様に心より感謝いたします。

(記録：埼玉県立川口工業高校図書館 及川美幸)

県青少年課による展示

令和5年度 埼玉県推奨図書

埼玉県では、青少年の皆さんに読んでいただきたい図書を、県民や出版社から推薦のあった図書の中から埼玉県青少年健全育成審議会での審議を経て選定しています。

今回の「図書館と県民のつどい」では、令和5年度埼玉県推奨図書30冊（乳幼児向け、小学校低学年向け、小学校中学年向け、小学校高学年向け、中学生向け、高校生・青年向け）及び図書POPを展示し、来場者に手に取って御覧いただきました。

また、イラストを使った資料「埼玉県推奨図書が決まるまで」によって事業の流れを来場者に説明しました。

県民の皆様「埼玉県推奨図書」をくわしく知っていただくよい機会となりました。

（記録：埼玉県県民生活部青少年課 横山 大輔）



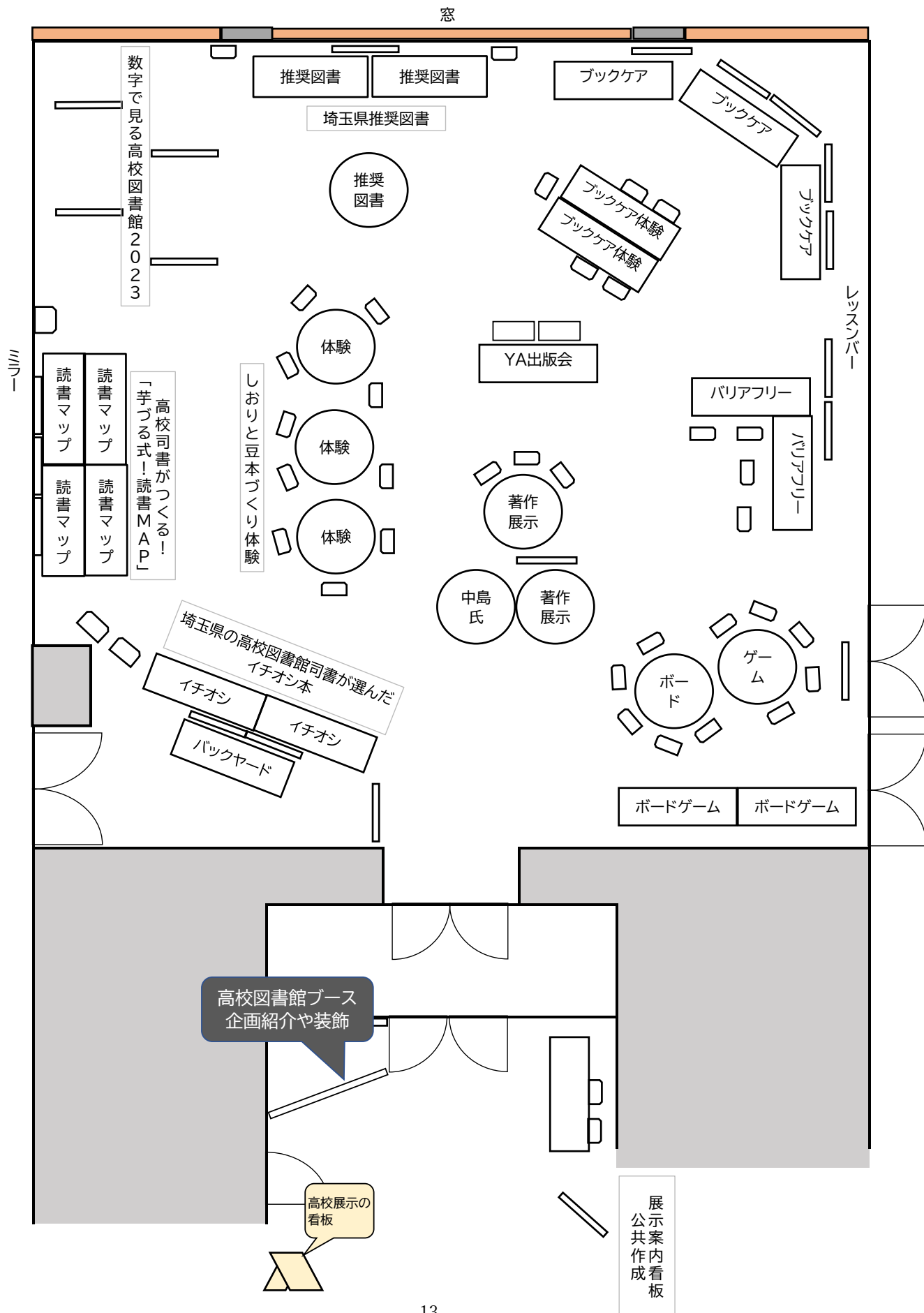
令和5年度埼玉県推奨図書

『ぞうさんのおふろ』（童心社）
 『わらってよ ピッコ』（福音館書店）
 『ヨルとよる』（教育画劇）
 『あなのなかから...』（あすなる書房）
 『どんぐりころころむし』（福音館書店）

『すずばあちゃんのおくりもの』（新日本出版社）
 『ひがたはたからばこ 青いカニみつけた』（徳間書店）
 『てんてんきょうだい』（ポプラ社）
 『いい一日ってなあに？』（BL 出版）
 『かみなり』（ポプラ社）
 『金色の約束』（国土社）
 『えんぴつはだまってる』（文溪堂）
 『寓話に生きた人 イソップーその人生と13の物語ー』（化学同人）
 『戦争をやめた人たち -1914年のクリスマス休戦ー』（あすなる書房）
 『はじめましてのダンネバード』（くもん出版）
 『ちいさな宇宙の扉のまえで 続・糸子の体重計』（童心社）
 『わたしとあなたのものがたり』（光村教育図書）
 『わたしはスペクトラム』（小学館）
 『和ろうそくは、つなぐ』（アリス館）
 『シリアからきたバレリーナ』（偕成社）
 『バンピー』（静山社）
 『僕らが学校に行く理由』（ポプラ社）
 『彼の名はウォルター』（あすなる書房）
 『バスを降りたら』（PHP 研究所）
 『いっしょにいるよ 子どもと裁判に出た犬フランとハッシュの物語』（小学館）
 『HAVE PRIDE 生きる！愛する！LGBTQ+ の2300年の歴史』（合同出版）
 『あなたの教室』（早川書房）
 『マイスマールランド』（講談社）
 『金環日蝕』（東京創元社）
 『ウェルカム・ホーム！』（幻冬舎）

「プチホール」内の展示見取図

プチホール内の展示見取図



大学図書館等による展示

SALA加盟図書館所蔵資料展示会

SALAとは

Saitama Academic Library Association の略です。本会は、1988年に埼玉県内の大学・短期大学図書館で設立された任意団体です。会員間の相互協力を通じて、相互の改善向上を図ること目的とし、その目的達成のために幾つかの事業を行っています。

■国立女性教育会館女性教育情報センター くどなたでも利用できます！

NWEC 女性教育情報センター

国立女性教育会館（NWEC）は男女共同参画を推進する機関で、ジェンダー平等の実現に取り組んでいます。館内にある「女性教育情報センター」は、男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館で、図書は約14万冊所蔵し、専門書から絵本まで幅広く収集しています。その他、雑誌や新聞記事、ミニコミ誌、地方行政資料を所蔵しています。今回の展示ではサービスの内容を紹介すると共に、所蔵資料を一部展示しました。

当センターは国内在住の方はどなたでも利用できる図書館です。図書・雑誌の貸出や電子ブックの利用登録ができます。また、全国の女性関連施設、公共図書館、大学、高校、企業等の機関・団体向けに図書を50冊、100冊とテーマ別に貸し出す「NWEC パッケージ貸出サービス」を提供しています。

当日は男女共同参画すごろくや、SDGs さんかくしおりおり、所蔵資料の紹介冊子『本、あり。』等の配布も行いました。



【展示資料】

『すきっていわなきゃだめ?』 辻村深月作、今日マチ子絵、瀧井朝世編 岩崎書店 2019
『12歳までに身につけたいSDGsの超きほ

ん』 蟹江憲史監修 朝日新聞出版社 2021
『こどもジェンダー』 シオリーヌ著 ワニブックス 2021

『ぼくのかぞくぼくのかからだ：プライベートパーツのえほん』 きたがわめぐみ作 永岡書店 2023 他、全11冊

(記録：国立女性教育会館 谷口 瑞枝)

■城西大学

<城西鉄道の旅

～ライブラリー라운ジの歴史探訪～

城西大学水田記念図書館では、2012年から教員の推薦を受けた学生・大学院生が館内に常駐し、学生への学習支援を行っています。

今年で11年目になる活動内容は多岐にわたり、論文やレポートの書き方のアドバイスや、文献の探し方、パソコンの使い方などのほか、図書館利用促進のために学生が楽しめる様々なイベントを企画・運営しています。

今回は、学生アドバイザーの活動をさらに知っていただくために、2014年からこれまでにいったライブラリー라운ジの歴史を鉄道の旅になぞらえ、楽しみながら振り返ることのできるポスターを展示しました。

訪れた方々には、架空の鉄道を模したポスターに仕掛けられたイベント紹介のPOPを開いたり、一緒に展示した学生アドバイザー作成のグッズを手にとったりして、楽しみながら学生アドバイザーの活動をご覧いただきました。

今年は2019年以降、初めての会場展示でしたが、学生アドバイザーの活動自体も今年から近隣の小・中学校や高校との地域連携活動が新しく始まっています。これから学生アドバイザーの活動がどこまで広がっていくのか今後の報告にご期待ください。

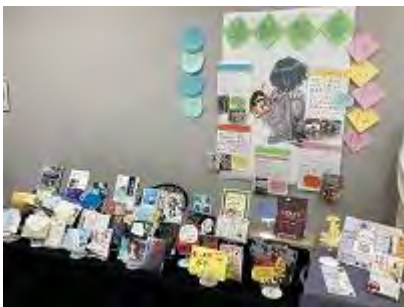


(記録：城西大学 豊島 啓子)

職員が協働し、おすすめ本の展示や、ビブリオバトル、選書ツアーなどのイベント企画を行っています。

今回は、そんな「ほんだな係」が過去に展示してきたおすすめ本と紹介ポップを展示しました。どのポップも工夫がちりばめられた力作ぞろい。様々な世代の来場者にご覧いただき、たくさんの方がポップづくりの参考にと写真を撮っていかれました。

展示場所には「ほんだな係」所属の大学生が常駐し、ポップ展示のほかにも今までに行ってきた様々なイベントについて説明させていただきました。現「ほんだな係」メンバーにとって、他大学団体との交流や、図書館関連イベントに出展することは初めての経験でした。たくさんの方に「ほんだな係」の活動に関心をもってもらい、交流させていただいたことは、メンバーにとって大変貴重な機会となりました。



(記録：文教大学越谷図書館 畔上 幸子)

■ものづくり大学

<本学教員の著書を紹介します>

2023年3月に出版されました『図解 世界遺産ル・コルビュジエの小屋ができるまで』をメインに、「カップ・マルタンの休暇小屋」の実寸大レプリカの紹介動画、本学教員が執筆、編集した書籍を展示いたしました。

この『図解 世界遺産ル・コルビュジエの小屋ができるまで』は、本学名誉教授の藤原成暁氏と八代克彦氏により、フランスの実測から本学キャンパス内に再現するまでをまとめた書籍になります。この書籍と共に、実寸

大レプリカ「カップ・マルタンの休暇小屋」の外部から内部までを紹介している動画を紹介する事が出来て良かったです。

この他にも、本学の先生方が執筆、編集されている書籍も紹介することが出来、本学の特色、また、ものづくり大学がある行田市を少しでも伝える事が出来たと感じました。ただ、本学のパンフレットを持参する事が出来なかったのが反省点でしたので、次回につなげていこうと思います。



(記録：ものづくり大学図書館・メディア情報センター 細井 まちこ)

■山村学園短期大学

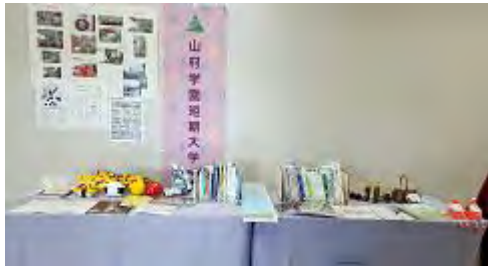
<遊んで学ぶ>

本学は、鳩山町にある小さな短期大学です。比企丘陵の丘の上、周囲を広葉樹の木々に囲まれ、図書館から眺める景色は、日々季節の移ろいを映しています。

子どもに寄り添いともに歩む保育者を養成する「子ども学科」を設置しています。近隣の保育園児や幼稚園児が行事に参加し、小遠足に訪れ学生と虫やどんぐり・松ぼっくりなどの植物に触れ、学生自身も子どもの頃のきらきらを思い出し、様々な遊びを通して多くの事を学んでいます。

今回の展示では、そんな遊びの大切さを学べる図書館の書籍を集めて展示しました。『森の幼稚園』『ごっこ遊びの探求』『遊びが学びに欠かせないわけ』等の他、集団ゲーム、秘密基地、わらべうた、年齢別遊びの本も展示しました。保育・心理・発達・特別支援など特色有る定期刊行物も展示しました。

今年も人気の絵本や仕掛け絵本、そして学生の創作絵本や新聞紙とビニールテープで作った色鮮やかな造形作品を展示しました。特に高さ116cmの大型絵本『100かいだてのいえ』は、日頃絵本には縁が無いと仰る方々も圧倒され、歓声が上がりました。



(記録：山村学園短期大学図書館 品川 今日子)

■立正大学

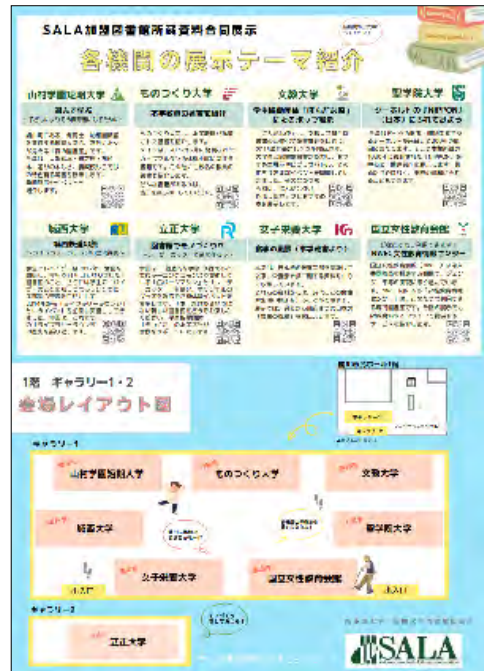
＜図書館でモノづくり!?ぶっくまと一緒にレーザーカッターで葉を作ろう!＞

立正大学熊谷図書館では、“創造的な学修”に特化した次世代ラーニングコモンズ施設として、昨年度より、3Dプリンターやレーザーカッター、ミシン等のデジタル機器を利用できる「RiLLLAB」と、VRヘッドセットやクロマキー背景、ボードゲーム等を利用できる「RiLLBase1」を新設し運用しております。

今回は、本学で提供している「缶バッジマシン」と「レーザーカッター」を使い、来場者にオリジナルのしおりと缶バッジを製作いただける体験イベントを実施いたしました。そして、イベントでは学生協働団体「ぶっくま」が大活躍!当日の対応をはじめ、展示ポスターの作成や製作グッズのデザイン案を担当するなど、企画・運営の中心として活動してもらいました。2019年度に発足した「ぶっくま」は、コロナ禍による制限を経て今年度はようやく活発な活動を進めることができ、今回はじめて「図書館と県民のつどい」に参加をさせていただきました。次年度以降も「ぶっくま」を中心に出席出来ればと思っておりますので、今後の活動にぜひご期待ください。



(記録：立正大学熊谷図書館 佐々木 綾花)



SALA 加盟図書館資料展示会チラシ

こども読書活動交流集会

こどもの本のひろば

「こどもの本のひろば」は、「おすすめの本の展示」「おはなし会」「工作会」を開催しました。子どもだけでなく、大人の方も大勢参加していただきました。

■おすすめの本の展示

0歳から小学校入学前の子もたちに読んであげたいおすすめの本を紹介した冊子『埼玉県立図書館司書がすすめるっておきのえほん 100冊 親子のふれあいえほんばこ』から絵本100冊を展示しました。親子が絵本を手に取り、読み聞かせをしている姿もありました。



■おはなし会

「桶川子どもの本の会」の皆さんによるおはなし会を13:30と14:30の2回開催しました。

あらかじめ用意していたプログラムの絵本・おはなしのほかに、当日の子もたちの様子を見て、手あそびなどを追加してもらい、大人も子どもたちも楽しそうにおはなしを聞いていました。

当日のプログラム

- ①おはなし 「風の神とこども」
- えほん 『きらきら』
- おはなし 「ババヤガーの白い鳥」

- えほん 『サンタクロースのおてつだい』
- ②おはなし 「マーシャとくま」
- おはなし 「おおかみと七ひきのこやぎ」
- えほん 『ぐりとぐらのおきゃくさま』
- えほん 「どろんこハリー」



■工作会

「おはなしの会『虹』」と「鴻巣よみきかせの会」の方にご協力いただき、工作会「かみコプター」を14:00と15:00の2回開催しました。

「かみコプター」は、牛乳パックとストローで簡単に作ることができます。親子で一緒に工作に取り組んでいる姿が見られました。

作り終えた子どもたちは、「かみコプター」をどれだけ高く飛ばせるか競って遊んでいました。



■おわりに

「こどもの本のひろば」では、おはなしボランティア同士で情報交換をしている場面に出会うことができました。

次回も多くの方々とともに、交流できればと思います。

(記録:埼玉県立久喜図書館 須藤 ゆみ子)

学校図書館講座

「学校司書の実践を学ぶ - 科学読物をはじめとした 本の選書や活用について -」

講師：金澤 磨樹子 氏
(東京学芸大学附属世田谷小学校 司書)

金澤さんは、東京学芸大学附属世田谷小学校に勤める学校司書であり、科学読物研究会の会員です。本講座は、金澤さんの学校での取組と、科学読物をはじめとした本の選書や活用についての講義と、本の評価をするワークショップの2部構成で行われました。

■学校図書館の取組

(1) 学校図書館で育てたい、読む力

学校独自の「読書ノート」を配布しています。読んだ本の記録を残すためのノートで、「読みっぱなしではなく、振り返ることで力がつく」という司書と教員の一致した認識に基づく取組です。1冊終わると、写真を撮って賞状を渡し、2冊目に進みます。

テーマで本を紹介する「としょしんぶん」は、月に一度は配布するよう心がけています。学年に合わせたおすすめの本のリストは、一度作ると必要に応じて更新するだけで良いのでおすすめです。低学年には絵本を読んでほしいと伝え、3年生からは幼年文学への橋渡しを、6年生にはノンフィクションに出会う機会になることを期待しています。本の展示も行っていて、面出しすると子どもは興味を持って借りていきます。

読書で心に残ったところを伝えることは大切ですし、子どもは子どもが紹介する本が大好きです。そのため4年生では本のポップを作成します。言葉で上手に表現する子も、絵やデザインで表現する子もいます。国語担当

の先生のアイデアで、二人で1冊の本を読み進めていく「交換読書」や、自分が面白かった本を相手に渡し合う取組も行いました。相手の好きな本を聞きながら本を選んだり、今まで読まなかった本を読むようになったり、読書の幅が広がっているようです。これらの取組は、子どもたちに本を楽しく読んでもらうために行っています。

(2) 学校図書館で育てたい、調べる力

インターネットも本もどちらも使える人になってほしいと考えています。まずは分類を知り、そして参考図書の引き方を知ります。子どもたちには関係する分類の棚に行くこと、司書に聞くことを伝えています。そして1年生で図鑑、3年生で百科事典、5年生では統計資料の使い方を学びます。

■蔵書の充実に向けて

実際にどんな本を選書しているのか、知識の本と英語版の絵本を合わせて30冊ほど、授業での活用場面も併せて紹介します。

『ふしぎいっぱい！学校の木』（高柳芳恵文・写真 偕成社）は学校の木を調べるときに使えますし、遊び方も載っています。このように授業で使える本を選ぶのはもちろんですが、子どもの興味を引き出す本も選ぶように心がけています。英語の授業で使う本は、英語担当の先生と相談しながら選書します。

『まどのむこうのくだものなあに？』（荒井真紀さく 福音館書店）は、子どもたちに英語で果物の名前を答えてもらいます。同じフレーズをくり返す『きんぎょがにげた』（五味太郎作 福音館書店）は発音の練習に使っています。日本語版と英語版の絵本を並べて展示することもあります。

「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」は、実際の授業事例がたくさん掲載されていておすすめです。

(https://www2.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/hdocs/index.php?action=pages_view_main)

■司書がいるとこんなことが…

1 「図書館がきれいになる」分類に目を向けることが可能になり、かつ図書館のサービスを行えるようになります。

2 「読書指導を教員と行うことができる」読書案内や取組を通して、読書の習慣化をサポートすることができます。

そしてもう1歩がんばって、3 「授業で利用できる」授業に関連する資料を調達することで蔵書の充実を図ることができます。

■科学読物の評価について

『小学校学年別知識読みもの240』（福岡淳子編 金澤磨樹子編 少年写真新聞社）は、子どもが読み通すことのできる「知識の読みもの」のリストとして、7人の司書で作りました。この本で紹介する本を検討する際、重視した評価の観点は以下の5点です。①発見、驚き、感動があるか。考えを深めることを経験できるか。②著者がそのテーマに精通していて、知識や情報の取捨選択が適切で、発達段階に合わせた差しだし方をしているか。③文章が理解しやすく適所に図版や挿絵などが配置されているか。④科学的研究は日進月歩であることを示し、もっと知りたい気持ちを生んでいるか。⑤科学的なものの見方や考え方、研究方法に触れることができるか。

大切なのは感想ではなく評価することです。絵や説明文はシンプルで分かりやすいか、読み聞かせに使えるかといった視点での評価も入れていいと思います。



■ワークショップ

今回のワークショップでは「ノンフィクシ

ョンの読みものとして子どもに手渡せるか」という点で評価を行い、用意された知識の絵本について各グループで話し合い、レビュースリップに評価を記入します。その後各グループの代表者が絵本の概略とグループで話し合った評価結果を発表し、最後に金澤さんから講評をいただきました。

課題本のどの部分についてどう評価するか、また、自身の実践や職場等での経験をもとに、その本の活用方法やどんな場面で手渡すと良いかなど、熱心に話し合っていました。発表では、「写真ではなくイラストだからこそ、より分かりやすく表現されている」「福祉の授業が始まる4年生に紹介したい」などの意見が出され、多角的な視点から評価したことが伺えました。金澤さんからは、一人職場で身近に仲間がいないことの多い学校図書館だからこそ、実際に本を見て、意見を交わす勉強会のようなものが楽しくやれると良いとお話いただきました。

■質問に答えて

Q 図書館に来ない子へのアプローチ

A 物語が好きでない子にはノンフィクションをすすめています。ただし「ノンフィクション」と言っても伝わらないので、本を手渡すことを心がけています。

Q 物語を選書する際に気を付けていること

A 本のリストなどを常にチェックして、本を手に取り、選書眼を養うことです。他校の図書館だよりなども参考になります。子どもが読みたがっているものを選び、独りよがりの選書にならないように心がけています。

講座終了後も、講座内で紹介された本を手取る参加者の姿が多く見られました。金澤さんの実践的な講義も、本の評価について様々な視点から意見が聞けたことも、貴重な経験になりました。

（記録：埼玉県立久喜図書館 田島 奈津美）

絵本の読み聞かせ実践講座

講師：杉山 きく子 氏
 (公益財団法人 東京子ども図書館理事、
 元公共図書館職員)

本講座は、子どもの読書に携わる方々向けに、杉山さんの公共図書館での児童担当のご経験を交えながら集団や家庭での読み聞かせについて、お話しいただきました。講義後には、絵本の読み聞かせに関するワークショップも行いました。

■はじめに

誰もが子どもたちに良い本を選びたいと思いますが、沢山ある中から良いものを選ぶことは難しいです。絵本の評価は、点数で表せず、テーマや内容も異なるため、誰しものが納得できるような比べ方は出来ません。しかし、絵本を読み聞かせした時、本当に子どもが磁石に吸い寄せられるように聞いてくれる本と、なんとなく子どもが遠ざかっていくような本の両方があります。私たちが絵本を選ぶうえで大切なことは何でしょうか。

■絵本を選ぶには…

(1) 普遍的な評価を得た本

先達の評価によって築かれた信頼のできる絵本のリストを参考にしましょう。例えば、『よみかかせのきほん』(東京子ども図書館)や『絵本の庭へ』(東京子ども図書館)です。また、『埼玉県立図書館司書がすすめるとおきのえほん 100 冊』(埼玉県立久喜図書館子ども読書支援センター)のような各館で発行しているリストに記載のある絵本の多くは重なっています。これらのリストに記載のある普遍的な評価を得た本を、1冊ずつ丁寧に読んでいくことが大事です。

私が東京都立図書館に入職し、初めてのおはなし会で読んだのが、『100 まんびきのねこ』(ワンダ・ガアグぶん・え 福音館書店)でした。当時は先輩がいない中、おはなし会をやらなくてはならない状況でした。そこで絵本を選ぶために『子どもの図書館』(石井桃子著 岩波書店)を参考にしました。この本は、石井桃子さんが主宰したかつら文庫での7年間の経験をまとめたものです。この中で子どもがとて喜んだ絵本として紹介されており、実際に読み聞かせをすると、びっくりするくらい子どもがよく聞いてくれました。

(2) 子どもから学ぶ

読み聞かせの経験を蓄積していくうちに、この絵本はどんな子どもたちが喜ぶのか、楽しさはどこにあるのかということが自分の中に積み重ねられていきます。

これらの2つの視点は相互に関連し合っています。大人としての評価をしつつ、長年蓄積された子どもの反応を照らし合わせながら子どもたちが喜ぶ本を選んでいきましょう。

■古いものが登場する絵本

読み手も知らない古い言葉や残酷という理由で避けがちな基本的な絵本、中でも古典的な絵本は本当に今の子どもたちに喜ばれないのでしょうか。

『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』(バージニア・リー・バートンぶん・え 福音館書店)は、モノクロ絵本であり、主人公は今では見ることも珍しい蒸気機関車です。小学校1年生のクラスで読み聞かせをしました。誰がいつどこで何をしたのかが明確なため、最初はよく聞いていなかった子どもでも途中から物語の中に入っていきます。古典的な絵本は、時系列に従って一つ一つ順番に子どもにお話を渡してくれます。

絵本の中には、子どもの知らないものが沢山出てきますが、子どもは知らないものと出会っても分からないところを飛ばして読むことができます。絵本の核となる面白さが今の

子どもの喜びや共感を呼ぶならば、読み続けるべきです。すばらしい文化遺産を次の世代に手渡すことをためらってはいけません。

■古い言い回しや表現について

大人が子どもを言葉でもてはやす習慣が少なくなりました。アニメやゲームばかりだと言葉を広げてくれません。絵本の力を通じて子どもたちに言葉を届ける必要があります。絵本は、辞書で調べるよりもストーリーが助走となって、言葉の意味が入りやすくなります。古い言葉や難しい言葉は、子どもの注意を引き、力試しになり、経験を広めることとなります。20%くらい分からない言葉があっても大丈夫です。そのような新鮮な言葉との出会いを子どもたちは求めているのではないのでしょうか。

■昔話の残酷さについて

『うさぎのみみはなぜながい』（北川民次ぶん・え 福音館書店）を小学校1年生の女の子に読み聞かせしました。「むごい」という言葉が出てきますが、子どもの日常にも大人の会話にもあまり出てきません。しかし、むごいことは日々起こっており、私たちは豚や牛を殺して命をつないでいます。現実こそがむごい世界であり、それを体現しているのが昔話です。むごい世界を時には子どもが求めているのではないかと思います。

■ユーモアを含んだ本

子どもが笑う本を読みたいと思う人もいますが、意外と難しいです。ユーモアは年齢によって違います。ユーモアは登場人物を馬鹿にするのではなく、その愚かさが自分の中にもあることを発見して共感する、人生に別の見方を見て納得するのだと思います。

■まとめ

デジタル化が進み、社会は大きく変わっていますが、子どもが本と出会うことによって起こる良い事は今も昔も変わっていません。

また、子どもに本を手渡す方法も全く変わっていません。急激な変化を迎えている今だからこそ、自分の人生をしっかりと生きていくうえでも子どもと本の結びつきを大切にしてほしいと思います。

読み聞かせを担っている皆さんが信頼できるリストから本を1冊ずつ丁寧に読んでください。出来れば他の人に読んでもらい、子どものように楽しんでください。子どもと絵本を信じる大人が自信をもって読んでこそ子どもたちは楽しんで聞いてくれます。子どもは、絵本の良し悪しを全力で教えてくれるので、その声に耳を傾けましょう。

■ワークショップ

『よみきかせのきほん』、『埼玉県立図書館司書がすすめるとおきのえほん100冊』の中から絵本を1冊選び、子どもに読み聞かせをした経験をグループに分かれて話し合いました。参加者同士で持参した絵本を紹介しながら活発に意見交換が行われていました。最後に各グループ代表の方から出た意見を発表して頂き、その後、杉山さんから講評をいただきました。



杉山さん自身のご経験を踏まえたお話は、とても分かりやすく、今後子どもたちへ読み聞かせを行ううえでの指針となりました。初心者から経験者まで各々が実り多き講義だったと思います。

（記録：埼玉県立久喜図書館 鈴木 絵理奈）

協賛・その他

協賛企業展示

当日は、協賛企業様のうち4社に出展いただきました。

各企業様のブースにて、パネルや商品のサンプル、各種書籍等の展示のほか、パンフレットやブックリスト等の配布も行われました。



協賛企業ブースは1階ロビーで展開



株式会社伊藤伊 展示ブース



社会福祉法人埼玉福祉会 展示ブース



株式会社ポプラ社 展示ブース



一般社団法人YA出版会 展示ブース

協賛品

各協賛企業様から以下の協賛品を御提供いただきました。改めて御礼申し上げます。

提供いただいた協賛品は、中学生のビブリオバトル予選会・決勝に出場された生徒の皆さんにお渡ししました。



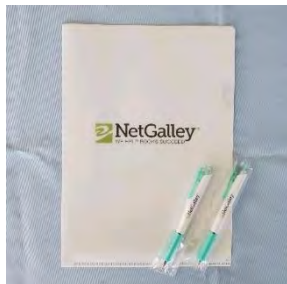
【埼玉新聞社】
ビブリオバトル用トロフィー



【株式会社伊藤伊】
オリジナルミニブック
キット（和装本）



【キハラ株式会社】
BookBIG クリップ
リーディングノート
図書館じしゃく
ライブラリーワッペン



【NetGalley（ネットギャラリー）】
ボールペン
クリアファイル



【社会福祉法人埼玉福祉会】
図書館司書プチ体験セット
ブックコートフィルム
トートバック



【株式会社 ポプラ社】
ブックカバー
しおりセット

中島京子さんのサイン会

記念講演の後、丸善 桶川店様、文藝春秋様のご協力により、中島京子さんの著作販売及びサイン会を行いました。



図書館と県民のつどい埼玉 2023 関係者名簿

(敬称略・順不同、所属は令和5年12月現在)

企画委員会

- 柴崎 勇二 (深谷市立南中学校、埼玉県学校図書館協議会)
- 及川 美幸 (埼玉県立川口工業高等学校、埼玉県高等学校図書館研究会)
- 木下 通子 (埼玉県立浦和第一女子高等学校)
- 須貝 俊 (埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課)
- 神原 陽子 (埼玉県立久喜図書館)
- 島崎 かおる (埼玉県立熊谷図書館)

実行委員会 (※：企画委員を兼任)

○こども読書活動交流集会

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 神原 陽子※ (埼玉県立久喜図書館) | 青木 さち子 (おはなしの会「虹」) |
| 大澤 尚美 (鴻巣よみきかせの会) | 中村 涼子 (浦和子どもの本連絡会) |
| 米田 佳子 (トムの会) | 須藤 ゆみ子 (埼玉県立久喜図書館) |
| 田島 奈津美 (埼玉県立久喜図書館) | 鈴木 絵理奈 (埼玉県立久喜図書館) |

○公共図書館部会

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 島崎 かおる※ (埼玉県立熊谷図書館) | 大金 伸子 (桶川市立中央図書館) |
| 橋本 拓歩 (北本市立中央図書館) | 久保田 崇子 (埼玉県立久喜図書館) |
| 蓮見 博 (埼玉県立久喜図書館) | 高木 真奈 (埼玉県立久喜図書館) |
| 丸山 夢摘 (埼玉県立熊谷図書館) | 森 奈穂子 (埼玉県立熊谷図書館) |
| 松田 康佑 (埼玉県立熊谷図書館) | |

○高校図書館部会

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 及川 美幸※ (埼玉県立川口工業高等学校) | |
| 木下 通子※ (埼玉県立浦和第一女子高等学校) | |
| 佐々木 美和子 (埼玉県立蕨高等学校) | 川野 史佳 (埼玉県立川口高等学校) |
| 石井 美佐子 (川口市立高等学校) | 関根 亮 (埼玉県立川口青陵高等学校) |
| 池田 光 (埼玉県立南陵高等学校) | 西山 千夏 (埼玉県立いづみ高等学校) |
| 嶋崎 馨 (埼玉県立川口北高等学校) | 紺野 佐和枝 (埼玉県立春日部女子高等学校) |
| 岩岡 朗子 (埼玉県立浦和北高等学校) | 飯塚 智子 (埼玉県立常盤高等学校) |
| 森安 周平 (埼玉県立浦和工業高等学校) | 田浦 さとみ (埼玉県立浦和商业高等学校) |
| 桑原 則子 (埼玉県立与野高等学校) | 富田 千紘 (さいたま市立浦和南高等学校) |

○ビブリオバトル

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 柴崎 勇二※ (深谷市立南中学校) | 木下 通子※ (埼玉県立浦和第一女子高等学校) |
| 中山 浩二 (聖学院大学) | 湯本 友佳子 (加須市立騎西図書館) |
| 新井 直也 (埼玉県立小川高等学校) | 杉本 太志 (埼玉県立白岡高等学校) |
| 小林 千草 (埼玉県立久喜図書館) | 林 夢果 (埼玉県立熊谷図書館) |

大学・短期大学図書館、類縁機関(代表者)

- | | |
|------------------|------------------|
| 谷口 瑞枝 (国立女性教育会館) | 関口 千登世 (城西大学) |
| 小池 涉 (女子栄養大学) | 田山 恭司 (聖学院大学) |
| 畔上 幸子 (文教大学) | 細井 まちこ (ものづくり大学) |
| 野口 一夫 (山村学園短期大学) | 佐々木 綾花 (立正大学) |

特別協力

○埼玉県推奨図書展示

- 横山 大輔 (埼玉県県民生活部青少年課)

当日運営（ボランティア・スタッフ）

○こども読書活動交流集会

| | |
|-------------------|-------------------|
| 伊藤 奈奈（鴻巣よみきかせの会） | 服部 妙子（鴻巣よみきかせの会） |
| 山田 モニカ（おはなしの会「虹」） | 成川 裕子（桶川子どもの本の会） |
| 小野 初江（桶川子どもの本の会） | 金治 直美（桶川子どもの本の会） |
| 川辺 幸子（桶川子どもの本の会） | 高野 久美子（桶川子どもの本の会） |
| 松田 寛子（桶川子どもの本の会） | 松沼 裕子（桶川子どもの本の会） |
| 宮本 邦子（桶川子どもの本の会） | 山崎 真弓（桶川子どもの本の会） |

○公共図書館部会

| | |
|------------------|-------------------|
| 正木 由紀子（上尾市図書館） | 高橋 あかね（上尾市図書館） |
| 畑中 智美（朝霞市立図書館） | 富樫 大貴（戸田市立中央図書館） |
| 伊藤 翔一（八潮市立八條図書館） | 駒田 紘史（八潮市立八條図書館） |
| 金子 昌子（和光市図書館） | 吉田 奈緒子（埼玉県立久喜図書館） |
| 尾崎 菜（埼玉県立久喜図書館） | 山本 輝子（埼玉県立熊谷図書館） |
| 篠崎 加奈（埼玉県立熊谷図書館） | 合澤 大志（埼玉県立熊谷図書館） |
| 岡戸 裕哉（埼玉県立熊谷図書館） | |

○高校図書館部会

| | |
|---------------------|-----------------------|
| 鈴木 沙代子（埼玉県立川口東高等学校） | 吉村 伸人（埼玉県立戸田翔陽高等学校） |
| 中山 淳子（埼玉県立鳩ヶ谷高等学校） | 加々美 祐江（埼玉県立浦和高等学校） |
| 武川 葉月（埼玉県立浦和西高等学校） | 穂積 絵理子（埼玉県立大宮高等学校） |
| 小林 智（埼玉県立和光高等学校） | 小幡 あい（埼玉県立大宮武蔵野高等学校） |
| 渡辺 智紀（埼玉県立久喜工業高等学校） | 神田 卓臣（埼玉県立大宮工業高等学校） |
| 中尾 一馬（埼玉県立桶川高等学校） | 太田 佳那（埼玉県立伊奈学園総合高等学校） |
| 稲森 千夏（埼玉県立上尾南高等学校） | 藺草 美奈（埼玉県立不動岡高等学校） |
| 平田 桃菜（埼玉県立川越初雁高等学校） | 尾澤 咲（埼玉県立三郷工業技術高等学校） |

○大学・短期大学図書館、類縁機関

| | |
|------------------|-----------------|
| 星野 咲希（国立女性教育会館） | 小岩 玲奈（国立女性教育会館） |
| 豊島 啓子（城西大学） | 甲田 さと美（城西大学） |
| 増田 奈美（女子栄養大学） | 矢野 大介（女子栄養大学） |
| 文教大学（職員3名、学生6名） | ものづくり大学（職員1名） |
| 品川 今日子（山村学園短期大学） | 島田 貴司（立正大学） |
| 西 慶喜（立正大学 学生） | 山下 榛斗（立正大学 学生） |
| 東 ひなた（立正大学 学生） | 中村 優奈（立正大学 学生） |
| 木本 康太（立正大学 学生） | |

○運営ボランティア

| | |
|------------------|-----------------|
| 犬木 萌乃（聖学院大学 学生） | 萬井 紗彩（聖学院大学 学生） |
| 安藤 慎人（大東文化大学 学生） | 松永 知紗（文教大学 学生） |
| 聖学院大学（学生1名） | |

○運営スタッフ

| | | | | |
|-------------|-------|--------|--------|-------|
| （埼玉県立久喜図書館） | | | | |
| 石原 雅樹 | 田村 文代 | 松本 芽生 | 五十嵐 雪将 | |
| （埼玉県立熊谷図書館） | | | | |
| 長島 利弘 | 小林 幸子 | 池谷 博 | 大高 広頌 | 坂本 早希 |
| 高橋 聡子 | 永島 海 | 濱田 英理子 | 八重樫 貴子 | 山本 千里 |
| 吉田 絢乃 | | | | |

埼玉県図書館協会・埼玉県教育委員会

| |
|------------------------------|
| 石井 宏明（埼玉県教育局市町村支援部長） |
| 佐藤 直樹（埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課課長） |
| 今井 久典（埼玉県図書館協会会長・埼玉県久喜図書館長） |
| 阿部 正浩（埼玉県図書館協会理事長・埼玉県熊谷図書館長） |

事務局

| | | | | |
|-------------|-------|-------|-------|-------|
| （埼玉県立熊谷図書館） | | | | |
| 川目 晴久 | 大久保 泰 | 飯田 優子 | 川田 明秀 | 川上 未来 |

図書館と県民のつどい埼玉 2023
 ーみんなが「図書館」でつながる日ー

- 趣旨
- 1 県内図書館の様々な活動を県民に紹介することで、図書館に対する県民の理解を深め、親しみを持ってもらう
 - 2 県民との交流を通じて、より良い図書館サービスを考える契機とする
 - 3 県内の子供読書活動に携わる方々や、公共図書館・大学図書館・高校図書館等の協働により実施することで、図書館に関わる連携を深める
 - 4 県民の読書環境がより豊かなものとなるよう、書店・出版社・新聞社など文字・活字文化を支える団体と図書館との連携を図る

日時 2023年12月10日(日) 10:00~16:00


会場 桶川市民ホール・さいたま文学館

内容

- 記念講演「図書館で夢を見る」 講師 中島 京子さん
- 中学生のビブリオバトル決勝
- 展示
 - ・中島 京子 さん著作展示
 - ・図書館で楽しむボードゲーム
 - ・ブックケア 未来へつながる保存の技術
 - ・読書バリアフリー資料展～広がれ！読書の多様性～
 - ・高校司書がつくる！「芋づる式！読書MAP」
 - ・数字で見る高校図書館2023
 - ・しおりと豆本づくり体験
 - ・埼玉県の高校司書が選んだ イチオン本2022
 - ・令和5年度埼玉県推奨図書
 - ・SALA加盟図書館所蔵資料展示会
 - ・協賛企業展示
- こども読書活動交流集会
 - ・学校図書館講座
 「学校司書の実践を学ぶー科学読物をはじめとした本の選書や活用についてー」
 講師 金澤 磨樹子 さん
 - ・絵本の読み聞かせ実践講座
 講師 杉山 きく子 さん
 - ・こどもの本のひろば
- 後日配信
 - ・記念講演「図書館で夢を見る」 講師 中島 京子さん
 - ・中学生のビブリオバトル決勝

- 主催 埼玉県図書館協会、埼玉県教育委員会、埼玉県学校図書館協議会、
埼玉県高等学校図書館研究会
- 共催 桶川地域文化振興共同事業体
- 後援 桶川市、桶川市教育委員会
NHKさいたま放送局、FM NACK 5、テレ玉
公益財団法人 日本教育公務員弘済会埼玉支部
埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA）
埼玉県書店商業組合、一般財団法人 出版文化産業振興財団（JPIC）
公益財団 法人文字・活字文化推進機構
- 協力 公益財団法人 日本教育公務員弘済会埼玉支部助成事業
埼玉県県民生活部青少年課、埼玉県高校図書館フェスティバル実行委員会
株式会社 文藝春秋、丸善 桶川店
埼玉県芸術文化祭 2023 協賛事業、埼玉まなびいプロジェクト協賛事業
- 協賛 株式会社 伊藤伊、キハラ株式会社、埼玉新聞社、社会福祉法人 埼玉福祉会
NetGalley（ネットギャラリー）、株式会社 ポプラ社、一般社団法人 YA 出版会

御来場いただきました皆様、共催・後援・協力・協賛をいただきました
企業・団体の皆様、運営に御協力いただきましたボランティア並びに
実行委員等の皆様に、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。



図書館と県民のつどい埼玉2023
記録集

令和6年2月刊行

編集・発行 埼玉県図書館協会
(埼玉県立熊谷図書館内)

〒360-0014 熊谷市箱田5-6-1

TEL 048-523-6291

FAX 048-523-6468